
正義の怪盗！！

超未来的マルガリ～タX

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

正義の怪盗！！

【Nコード】

N41410

【作者名】

超未来的マルガリータX

【あらすじ】

僕の名前は梯巨^{カケハシフタル}第三九里高等学校の2年生です。

特徴の無いのが特徴と友達には笑われます。

身長は170cmで見た目中肉中背。中性的で童顔。

どの学科もテストでは70点前後で体育の成績も中の中ぐらい。

良く言えばオールマイティー？悪く言えば中途半端な僕です。

クラスでも特に目立つ方で無ければ忘れ去られているわけでもなか

ったりします。

ちよつと目立っているところと言うと学年一の美少女で頭脳明晰容姿端麗身体能力抜群の前園風香の幼馴染で家も隣ってことぐらい…。でも、その風香も今話題の正義の怪盗ルパン7世にご執心の様子です。

実を言うと僕がその怪盗ルパン7世…と言うのは正確じゃなくて僕も』その怪盗ルパン7世なのです。

でもこれはだれにも言っではいけない秘密なので…風香がその話題で盛り上がっているときも指をくわえて見ているだけなのです。

プロローグ "正義の怪盗現る";

夜も更ける深夜0時、本来であれば喧騒は静まり、虫の音色だけが聞こえる時間。

しかし、今だけは違った。警察のパトカーがひしめき合い、その後ろにも、報道陣と野次馬が詰め寄せていた。

レーザーライトが縦横無尽に美術館を照らしつける。

多くの視線を全て奪いつくしているのは、白いタキシード姿に同じ色のシルクハットとマント、銀縁のモノクルを掛けている男だった。年齢はかなり若く見える。

「みなさん見てください！私立富ヶ原大美術館の屋根上に白いタキシード姿のルパンが！？怪盗ルパン7世がたっています！！！！」

タキシード姿の男は自身に寄せられる視線を感じて満足げに口の端を釣り上げる。

手には一枚の絵画が中にある布の包みを持っていた。

「ステ…。不敵な笑みを浮かべて、わた…。我々報道陣の側を眺めております！！！！」

警察が拡声器で「おとなしくお縄に付け」的な事を叫んでいるが、そんな声も男の気持ちを只盛り上げるだけであった。

最上階の窓から警察が屋根によじ登り後ろから男を捕まえようとするも、ヒラリと宙に何のためらいもなく躍り出る男。

野次馬からキヤーと歓声と悲鳴を足して2で割ったような声が響く。

男の背中からハンググライダーのような羽が広がり、そのまま風に
乗るかと思いきや

その中心から金属製の筒が出てきて火を噴き始める。いつの間にか
タキシード男の頭にはヘルメットが装着されていた。

チユドンツと言う音と共に一気に加速し、空の彼方へ消えるシルク
ハット男。

「ジエ、ジェットエンジン背負ってやがった…」

拡声器を持った警察官がぼつりとつぶやく。

野次馬からは何故か歓声が上がっていた…。

時は同じく美術館の中。

外の大歓声は中にまで響いていた。それを合図にするかのごとく
美術品の一つである大壺から、全身黒タイツ人間がひょっこり出て
きていた。

警察官の服装に着替えると、そのまま出口へ向かうタイツ人間。

その背中には「やってらんねーよ……」的な哀愁が漂っていた。

コレクション 1・1 (前書き)

下品な描写があります。

苦手な方やご飯中な方はごめんなさい。

コレクション 1 - 1

「はあ、だれがキーマカレーを製造しろって言ったんだよ…」

僕はトイレのドアを開けながらため息をついた。

あれはキーマカレーだった。お店に見本として出しても見た目は絶対に変わらないほどキーマに決まっていた。

ふふふっ…。いやー僕のギャグセンスはいつも思うがなかなかのものだなー。

そんな思いもすぐに霧散して現実に戻る。

出来れば「かりん糖」迄でなくてもいいから「ふ菓子」程度であってほしかった、そう切に願う。

今更願ったところで何も変わらないのは別に気にしないのだ。

「ふ菓子」プランをぶち壊してくれたのは、いや今は止そう、涙が出てくる。

最近…「ブヘエツ!?!」

だ、だれだ僕の思考を邪魔する奴は!!!

愚かにも僕のこの『ぶにぶにほっぺ』に無骨な上履き…クサツ!?!
この上履きクサアツ!?!?

衝撃 + 臭撃 (属性攻撃) で精神的に大ダメージじゃないか!?!
怒りを込めて振り返るとそこには小学校からの腐れ縁

「なんだ腐れ縁Aじゃないか。つてキサ もがあツ!?!」小学校からの付き合いしている大親友に腐れ縁Aはないだろ!?!」

口に、僕のプリチーな口に腐れ縁Aの上履きが!

「もがもがふがー！」
吐き捨てて、唾を掛けてやると腐れ縁A兼自称親友は「ああ俺の上履き!？」とか叫んでいたが無視だ。

「テメエ何しやがる!？」

なんか切れてる腐れ自称親友だが、お前が押し込んだもんだろと僕は思う。

といますか

「なんで、上履きに僕の口まで蹂躪されなければいけないの!？」

「うるせえ!いきなりトイレから出てきて腹を擦りながらキーマカレーとか言うなよ!？食べなくなるだろうが!！」

何だこいつは?他人のぶつぶつ言っている独り言にオートで聞き耳立てているなんて気持ち悪い奴だ。

こいつは僕に気でもあるのか…うわ、今ゾワッて鳥肌が立ったぞ!

!ゾワッて

だから正直に言ってやった。

「他人のぶつぶつ言っている独り言にオートで聞き耳立てているなんて気持ち悪い奴」

「テメエ覚悟は出来てんだろうな!！」

なんか、いきなり凄み始めやがったが、腐れ親友などに出来る事はたかが知れているので鼻で笑ってやる。

しかし、いきなり後ろを向いて走り出す腐れを見て僕は戦慄した。

ま、まさか

「おい、腐れ!！貴様もしや」おーよ!お前の愛しの風香ちゃんに暴露してやる!！」!？」

な、何という覚悟：クラスいや学年トップクラスと言われる美少女にいまどき小学生も言わない
下品ネタを、しかも昼休み（お食事中）に暴露するなど自爆行為も度が過ぎる！？

自身を犠牲にした自爆攻撃に走る腐れの覚悟に恐怖など　するわけもなく迎撃のため突撃を開始する。

ギャグ中に発動する筋力補正を最大限使い、自身の上履きを蹴り放つ。

ゴオッ！と言う爆音を立て、僕の上履きは腐れの後頭部に激進する。轟音を鳴り響かせ後頭部に直撃する上履きにぶっ飛ぶ腐れにさらに追撃をするため、

手刀を丹田法（ギャグ能力補正中のため使用可）を叩きこむ。

それを紙一重でかわす腐れ、掠った腐れの髪の毛が舞う。ガキョーンと壁に突き刺さる我が手刀

カワサレタ！？

反撃を恐れ全身を丹田法で強化するも、我が無防備な体等には目もくれず、再び疾走を始める腐れ。

「ふはははははは！上履きの痛みも加味して素晴らしい地獄を見せややる！！！」

勝ち誇った笑みを見せ小さくなっていく奴の前に戦慄の超戦士が現れた。

学年主任兼生徒指導兼元K-1チャンプ、溝口一先生だ。

音速に達する速さを纏う腐れの脳天をその剛腕で躊躇もなく打ち抜く。

うわあ…いくら補正状態でもあれは死ぬか…？それにしてもノーマルで補正状態の人間を潰すとか何のジョークだよ。

そんなことを思っていると溝口ゴリラはこっちを向いた。

スゴイスマイルだ…ん？スゴイスマイルってどんなの？い、いやそんなことを悩んでいる場合じゃない。

壁に突き刺さった僕のお手手、既に補正状態は解除されているので抜けるはずもなく手首まで埋まっている。

ハハハ…死んだ。

昼休み5分前を告げるチャイムが無情にも響き渡った。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4141o/>

正義の怪盗！！

2010年10月31日01時14分発行